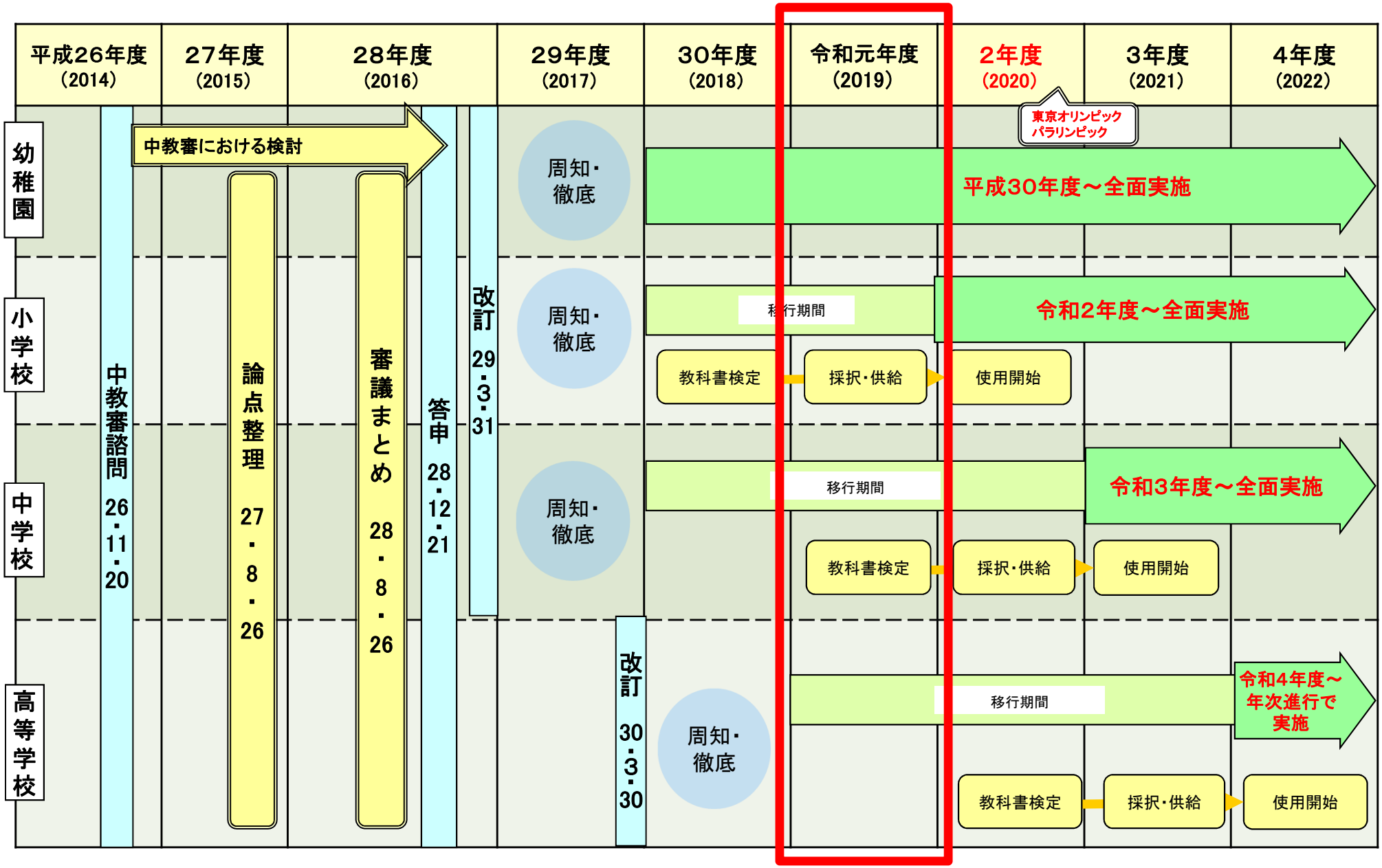
今後の学習指導要領改訂に関するスケジュール



特別支援学校学習指導要領（幼稚部及び小学部・中学部）についても、平成29年4月28日に改訂告示を公示。
特別支援学校学習指導要領（高等部）は、平成31年2月4日に改訂告示を公示。

令和元年6月10日 教育課程部会 資料6

新学習指導要領等の周知・広報に関するこれまでの取組

令和元年6月現在

対象	周知・広報の手段
教職員	○解説の作成（総則と各教科等合わせて小学校14編、中学校13編、高等学校27編） ○中央説明会（全都道府県・政令指定都市の指導主事等対象）の開催 ・小・中は全国3か所で全教科等の解説を説明（約4,000名が参加） ・高は全国2か所で全教科等の解説を説明（約1,500名が参加） ・特支（小・中学部）は全国4か所で説明（約300名が参加） ・特支（高等部）は全国1か所で説明（約300名が参加） ○各都道府県等による研修に文部科学省職員を講師として派遣 ・平成29年度は全国36都道府県に派遣、約2万5,000名が受講 ・平成30年度は全国35都道府県に派遣、約2万6,000名が受講 ○校内研修用の改訂のポイント20分解説動画（YouTube）資料の作成（（独）教職員支援機構） ・小学校等18本，中学校13本作成・延べ99,301回再生（6/3時点） ○「初等教育資料」「中等教育資料」等の文科省出版物への記事掲載や識者の意見、好事例等の紹介 ○教育関係雑誌等の出版物への寄稿 ○アクティブ・ラーニング及びカリキュラム・マネジメントに関する研究の成果報告、グッド・プラクティスの共有 ・平成30年5月9日、10日にサミットを実施。約540人が参加。 ※令和元年度は7月31日、8月5日に全国2か所で開催 ○学習指導要領冊子の教師への配付 ・小学校約546,000部、中学校約360,000部、高等学校約300,000部、 ・特別支援学校（幼稚部・小学部・中学部）約48,000部、特別支援学校（高等部）約40,000部配付 ○文部科学省ホームページ上での新学習指導要領Q&Aの公表 ○大学（特に、教員養成系大学、教職課程を有する大学）への説明 ○学習指導要領冊子の大学への配付
保護者や地域の人々、産業界等	○リーフレット・ポスターの作成 ・リーフレット（ダイジェスト版）を全小・中学校等の保護者に配付（約1,000万部） ○一般向け動画（3分）の作成 ○ウェブサイトのリニューアル ・著名人インタビュー、説明資料等コンテンツも充実 ○政府広報による周知（政府インターネットテレビ，政府広報オンラインへの記事掲載，Yahoo!モバイルバナー） ○PTA関係者への説明 ○保護者向け雑誌や子供向け新聞等を通じた発信 ○一般向け周知イベントの実施（こども教育たんけん隊） ○一般向け講演会（Education Expo等）
教科書・教材会社	○解説の作成【再掲】 ○教科書セミナー（全教科等について教科書会社に対して説明） ○日本図書教材協会編集者研修会（全教科等について教材会社に対して説明）

保護者・一般の方向け新学習指導要領 周知・広報用の媒体作成について

令和元年6月

周知・広報用キーメッセージ

生きる力　学びの，その先へ

情報化や技術革新，グローバル化等により予測を超えて加速度的に進展することが予想される中，学校教育には，　子供たちに，このような変化の激しい社会を生きるために必要な力である「生きる力」を育成することが求められています。

新しい学習指導要領では，日々の授業での学びを通して，この「生きる力」を一人一人の子供たちに確実に育成することを目指しています。このことを「生きる力　学びの　その先へ」と表現しました。

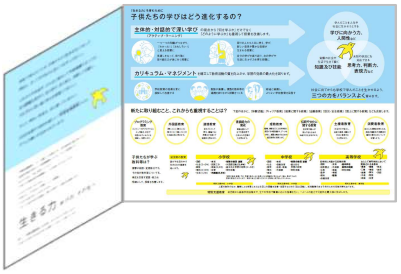
以下のような媒体を作成し，周知・広報を進めています。

・リーフレット，ポスター
・動画
・ウェブサイト

リーフレット，ポスター

・平成31年２～３月に「新しい学習指導要領の全面実施に向けた準備資料」として，全小・中学校等*にリーフレット，ポスター等を送付
・全小・中学校等*の児童生徒の保護者全員に，リーフレット（ダイジェスト版）を学校を通じて配付
・令和元年度に開催される会議・イベントにおいてリーフレットを配布

*全小・中学校等には，義務教育学校，中等教育学校の前期課程及び特別支援学校小・中学部を含みます。



リーフレット

リーフレット（ダイジェスト版）

ポスター

新しい学習指導要領リーフレット　制作後記～リーフレットを読み解くためのヒント～
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1414159.htm

動画

以下の２動画を作成（文部科学省「学習指導要領ウェブサイト」でも閲覧可能）

新学習指導要領の広報動画
「生きる力～学びの，その先へ～」
学習指導要領や今回の改訂について
イメージがつかめる３分程度の動画です。

政府インターネットテレビ
「2020年度，子供の学びが進化！！
よくわかる“新学習指導要領”」
新学習指導要領のポイントについて，
保護者からの質問にお答えする形で
紹介しています。（内閣府作成）

ウェブサイト

平成31年２月に文部科学省「学習指導要領ウェブサイト」をリニューアルオープン

学習指導要領の基本的なこと
・学習指導要領とは何か
・学習指導要領ができるまで　等

学習指導要領のくわしい内容
・平成29・30年改訂学習指導要領の趣旨
・学習指導要領・解説
・学習指導要領改訂関連資料　等

授業改善の参考資料
（旧「先生応援ページ」）
・指導資料
・学習評価に関する資料　等

教育課程に関連する調査，事業等
・教育課程に関連する調査
・文部科学省委託事業　　等

＜その他コンテンツの例＞

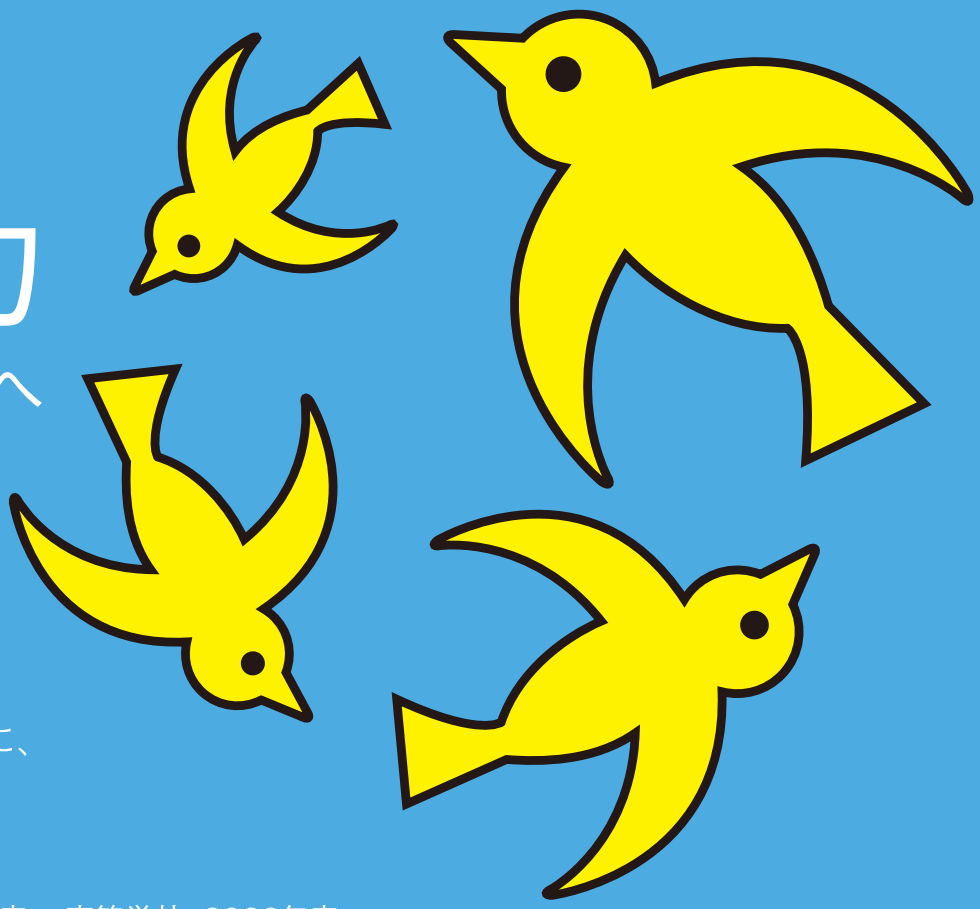
著名人へのインタビュー
各界で活躍中の著名人に，
子供の頃に学校で学んだことが
今にどうつながっているかなどを
語っていただきます。

説明資料
新学習指導要領のポイントを
リーフレットより詳しく，
具体例により説明する資料です。
(例)社会に開かれた教育課程

バナー
「学習指導要領ウェブサイト」の
バナー（ウェブページ上で他の
ウェブサイトを紹介する画像）を
ウェブ上で配布しています。

小学生の保護者の方へ
新しい学習指導要領

生きる力
学びの、その先へ



学校で学んだことが、
明日、そして将来につながるように、
子供の学びが進化します。
新しい学習指導要領、スタート。

小学校：2020年度～ 中学校：2021年度～ 高等学校：2022年度～

幼稚園は、2018年度に新しい幼稚園教育要領がスタート。特別支援学校は、小・中・高等学校学習指導要領に合わせて実施。

改訂に込められた願い

これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、
自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、
それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。
そして、明るい未来を、共に創っていきたい。
新しい「学習指導要領（がくしゅうしどうようりょう）」には、そうした願いが込められています。

「学習指導要領」とは？

全国どこの学校でも一定の教育水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準です。およそ10年に一度改訂され、これを基に子供たちの教科書や時間割が作られます。

小学校で学ぶ教科等は？

太字が新設・変更部分です。他の教科等についても、育成を目指す資質・能力を明確にして、授業を改善します。
※2018年度から一部先行実施しています

- 国語
- 社会（3～6年）
- 算数
- 理科（3～6年）
- 生活（1,2年）
- 音楽
- 図画工作
- 家庭（5,6年）
- 体育
- **外国語（5,6年）**
- **特別の教科 道徳**
- 外国語活動**（3,4年）**
- 総合的な学習の時間（3～6年）
- 特別活動

くわしくは文部科学省「学習指導要領ウェブサイト」へ
各界で活躍中の著名人へのインタビューも！
URL　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm?mdia=pamp01

文部科学省
初等中等教育局教育課程課
〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2　03-5253-4111（代表）

「生きる力」を育むために

子供たちの学びはどう進化するの？

主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点から

「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業を改善します。

一つ一つの知識がつながり、「わかった！」「おもしろい！」と思える授業に

見通しをもって、粘り強く取り組む力が身に付く授業に

周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業に

自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業に

カリキュラム・マネジメントを確立して

教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図ります。

学校教育の効果を常に検証して改善する

教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくる

地域と連携し、よりよい学校教育を目指す

学んだことを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力、人間性など

実際の社会や生活で生きて働く
知識及び技能

未知の状況にも対応できる
思考力、判断力、表現力など

社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、**三つの力をバランスよく**育みます。

新たに取り組むこと、これからも重視することは？

下記のほかに、「体験活動」「キャリア教育」「起業に関する教育」「金融教育」「防災・安全教育」「国土に関する教育」なども充実します。

プログラミング教育
コンピュータがプログラムによって動き、社会で活用されていることを体験し、学習します。

外国語教育
「聞くこと」「話すこと」に加えて、「読むこと」「書くこと」の力を育みます。

道徳教育
自分ごととして「考え、議論する」授業などを通じて道徳性を育みます。

言語能力の育成
国語を要として全ての教科等で子供たちの言葉の力を育みます。

理数教育
観察、実験などにより問題を科学的に解決する学習活動や、データを分析し、課題を解決するための統計教育を充実します。

伝統や文化に関する教育
我が国や郷土が育んできた日本の伝統や文化を学びます。

主権者教育
社会の中で自立し、他者と連携・協働して社会に参画する力を育みます。

消費者教育
自立した消費者を育むため、買物の仕組みや消費者の役割などについて学習します。

特別支援教育
全ての学校で障害に応じた指導を行い、一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばします。

「特別の教科 道徳」では、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて、認め、励ますための評価（記述式）を行います。
特定の考え方を押し付けたり、評価を入試で使ったりしません。

お子さんが学校で学んだことについて、ご家庭で、ぜひ話してみてください。

保護者の皆さまの働きかけが、子供たちの「生きる力」を育む大きな原動力になります。保護者の働きかけがある子供の学力は高いという傾向があります。

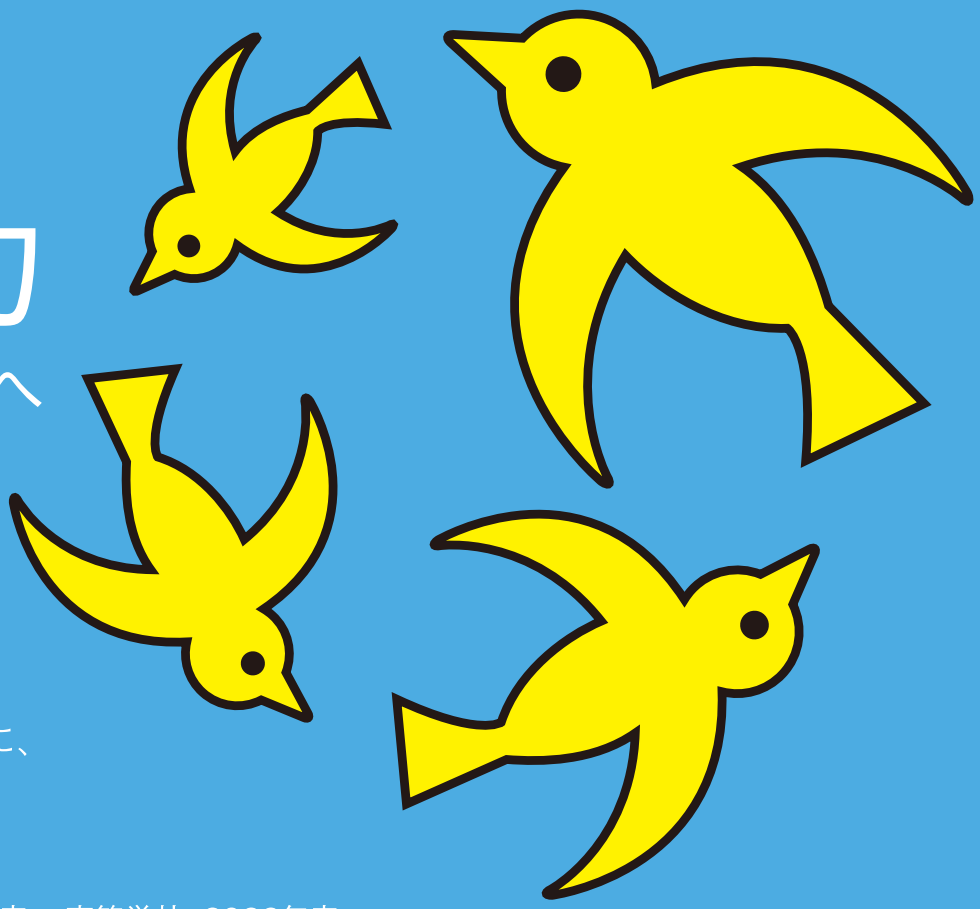
例えば…

- □学校や友達のこと、地域や社会の出来事など家庭での会話が多い。
- □テレビ・ビデオ・DVDを見る時間などのルールを決めている。
- □テレビゲーム（携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム等を含む）をする時間を限定している。
- □子供に本や新聞を読むようにすすめている。
- □子供に最後までやり抜くことの大切さを伝えている。
- □自分の考えをしっかり伝えられるようになることを重視している。
- □地域や社会に貢献するなど人の役に立つ人間になることを重視している。

（平成29年度全国学力・学習状況調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究）

中学生の保護者の方へ
新しい学習指導要領

生きる力
学びの、その先へ



学校で学んだことが、
明日、そして将来につながるように、
子供の学びが進化します。
新しい学習指導要領、スタート。

小学校：2020年度～ 中学校：2021年度～ 高等学校：2022年度～

幼稚園は、2018年度に新しい幼稚園教育要領がスタート。特別支援学校は、小・中・高等学校学習指導要領に合わせて実施。

改訂に込められた願い

これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、
自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、
それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。
そして、明るい未来を、共に創っていきたい。
新しい「学習指導要領（がくしゅうしどうようりょう）」には、そうした願いが込められています。

「学習指導要領」とは？

全国どこの学校でも一定の教育水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準です。およそ10年に一度改訂され、これを基に子供たちの教科書や時間割が作られます。

中学校で学ぶ教科等は？

太字が新設・変更部分です。他の教科等についても、育成を目指す資質・能力を明確にして、授業を改善します。
※2018年度から一部先行実施しています

- 国語
- 社会
- 数学
- 理科
- 音楽
- 美術
- 保健体育
- 技術・家庭
- 外国語
- **特別の教科 道徳**
- 総合的な学習の時間
- 特別活動

くわしくは文部科学省「学習指導要領ウェブサイト」へ
各界で活躍中の著名人へのインタビューも！
URL　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm?mdia=pamp01

文部科学省
初等中等教育局教育課程課
〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2　03-5253-4111（代表）

「生きる力」を育むために

子供たちの学びはどう進化するの？

主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点から

「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業を改善します。

見通しをもって、粘り強く
取り組む力が身に付く授業に

一つ一つの知識がつながり、
「わかった！」「おもしろい！」
と思える授業に

自分の学びを振り返り、次の学びや
生活に生かす力を育む授業に

周りの人たちと共に考え、
学び、新しい発見や豊かな
発想が生まれる授業に

カリキュラム・マネジメントを確立して

教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図ります。

学校教育の効果を
常に検証して
改善する

教師が連携し、
複数の教科等の
連携を図りながら
授業をつくる

地域と連携し、
よりよい学校教育を
目指す

学んだことを人生や
社会に生かそうとする
学びに向かう力、人間性など

実際の社会や
生活で生きて働く
知識及び技能

未知の状況にも
対応できる
思考力、判断力、表現力など

社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、
三つの力をバランスよく育みます。

新たに取り組むこと、これからも重視することは？

下記のほかに、「体験活動」「キャリア教育」「起業に関する教育」「金融教育」「防災・安全教育」「国土に関する教育」なども充実します。

プログラミング教育

プログラムによって問題を解決する活動を通して、生活や社会における課題を解決する力を育みます。

外国語教育

「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の力を総合的に育みます。

道徳教育

自分ごととして「考え、議論する」授業などを通じて道徳性を育みます。

言語能力の育成

国語を要として全ての教科等で子供たちの言葉の力を育みます。

理数教育

観察、実験などによる科学的に探究する学習活動や、データを分析し、課題を解決するための統計教育を充実します。

伝統や文化に関する教育

我が国や郷土が育んできた日本の伝統や文化を学びます。

主権者教育

社会の中で自立し、他者と連携・協働して社会に参画する力を育みます。

消費者教育

自立した消費者を育むため、売買契約の仕組みや消費者の基本的な権利と責任などについて学習します。

特別支援教育

全ての学校で障害に応じた指導を行い、一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばします。

「特別の教科 道徳」では、生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて、認め、励ますための評価（記述式）を行います。
特定の考え方を押し付けたり、評価を入試で使ったりしません。

お子さんが学校で学んだことについて、ご家庭で、ぜひ話してみてください。

保護者の皆さまの働きかけが、
子供たちの「生きる力」を育む
大きな原動力になります。
保護者の働きかけがある
子供の学力は高いという
傾向があります。

例えば…

- □学校や友達のこと、地域や社会の出来事など家庭での会話が多い。
- □テレビ・ビデオ・DVDを見る時間などのルールを決めている。
- □テレビゲーム（携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム等を含む）をする時間を限定している。
- □子供に本や新聞を読むようにすすめている。
- □子供に最後までやり抜くことの大切さを伝えている。
- □自分の考えをしっかり伝えられるようになることを重視している。
- □地域や社会に貢献するなど人の役に立つ人間になることを重視している。

（平成29年度全国学力・学習状況調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究）